

# 全国学力・学習状況調査について

泉佐野市立長南中学校

## 1. 調査の目的

- 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのようなとりくみを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

## 2. 調査実施日

平成27年4月21日（火）

## 3. 調査の対象

中学校第3学年、全生徒

実施生徒数（ 87 人）

## 4. 調査の内容

### (1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語・数学及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

### (2) 学習状況に関する調査

調査する学年の生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「生徒アンケート調査」という。）を実施する。

### (3) 学校のとりくみに関する調査

調査対象の生徒が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成27年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- 平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じ状況であるが、全国と比べ上位層が少なく、中位層・下位層が多い傾向が表れている。

平均正答率（本校 66.5 / 泉佐野市 70.8 / 大阪府 74.4 / 全国 75.8）

「B区分問題」

- 平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じ状況であるが、全国に比べ上位層が少なく、中位層・下位層が多い傾向が表れている。

平均正答率（本校 56.7 / 泉佐野市 59.9 / 大阪府 64.8 / 全国 65.8）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

| 国語A  | 特徴がみられた設問  |
|--|--|
| <p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>○聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話すことに課題がある。</p> <p>1ニ 「成否」という言葉を、聞いて分かりやすい表現に直す。 (49.4 / 65.0)</p> <p>○必要に応じて質問しながら聞き取ることに課題がある。</p> <p>8ニ 意図に合った質問として適切なものを選択する。 (65.5 / 76.1)</p> <p>【書く能力】</p> <p>○書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して書くことに課題がある。</p> <p>2ニ 意見文を直した意図として適切なものを選ぶ。 (70.1 / 83.6)</p> <p>○伝えたい事実を明確に書くことに課題がある。</p> <p>4一 棒グラフの印の部分の変化の内容を適切に書く。 (46.0 / 67.6)</p> <p>○伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考えることに課題がある。</p> <p>7一 二つの回答案の構成の違いを説明したものとして適切なものを選択する。 (51.7 / 70.6)</p> | <p>○伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことに課題がある。</p> <p>7ニ 要望を適切に捉え、回答案の冒頭に一文を加える。 (47.1 / 66.4)</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】</p> <p>○文脈に即して漢字を正しく書く、読むことに課題がある。</p> <p>9一2 シュクシャク (55.2 / 72.1)</p> <p>9ニ1 詳細 (64.4 / 78.2)</p> <p>○語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題がある。</p> <p>9三ウ 適切な敬語を選択する。 (69.0 / 84.1)</p> <p>9三エ 適切な語句(縁の下の力持ち)を選択する。 (49.4 / 70.8)</p> <p>9三オ 適切な語句(たなびく雲)を選択する。 (35.6 / 49.0)</p> <p>○代表的な古典の作品に関心をもつことに課題がある。</p> <p>9七2 古典の作品名を漢字で書く。 (49.4 / 66.7)</p> |

| 国語B   | 特徴がみられた設問  |
|---|--|
| <p>○資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書くことに課題がある。</p> <p>1三 演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く。 (37.9 / 56.2)</p> <p>○文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉えることに課題がある。</p> <p>2ニ 雑誌の記事に書かれていることとして適切なものを選択する。 (56.3 / 67.8)</p> | <p>○複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことに課題がある。</p> <p>2三 資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く。 (11.5 / 23.0)</p> <p>○表現の工夫について自分の考えをもつことに課題がある。</p> <p>3一 「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択する。 (71.3 / 88.6)</p> |

### 3. 学習状況調査より

| 質 問 項 目                                 | 本校   | 全国   | 10%○<br>5%◇ | 差    |
|---|------|------|-------------|------|
| 授業のはじめに目標が提示されている。                      | 64.8 | 41.9 | ○           | 22.9 |
| 授業の最後に学習を振り返る活動を行っている。                  | 56.0 | 19.4 | ○           | 36.6 |
| 400字詰め原稿用紙2～3枚に感想文や説明文を書くのは難しい。         | 53.8 | 36.7 | ○           | 17.1 |
| 自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい。        | 40.7 | 30.8 | ◇           | 9.9  |
| 授業で分からないことがあったら、その場で先生に尋ねる。             | 25.3 | 10.6 | ○           | 14.7 |
| 国語の勉強は大切だと思う。                           | 44.0 | 55.6 | ○           | 11.6 |
| 国語の授業の内容はよく分かる。                         | 28.6 | 25.1 |             | 3.5  |
| 読書が好きだ。                                 | 31.9 | 44.9 | ○           | 13.0 |
| 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。        | 30.8 | 45.3 | ○           | 14.5 |
| 国語の授業で意見などを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。 | 26.4 | 22.0 |             | 4.4  |

○授業への意欲を高めるため、『授業のはじめにその時間の目標を提示し、ふりかえりをして終わる』ことは国語科を中心に本校全体のとりくみとして推進してきたが、それが定着してきていることが、生徒質問紙からもわかる。

○「国語の授業の内容はよく分かる」は全国平均を上回っているが、「国語の勉強は大切だと思う」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」は全国平均を大きく下回っており、学習への意識や意欲をもっと高める必要がある。

○国語Aでは、とくに漢字力、語彙力の低さが顕著に出ている。これは生徒質問紙で読書が好きで生徒が全国平均を大きく下回っていることとも関係していると思われる。過年度でも同じ傾向があり、昨年度より漢字テストの内容を変更し、小学校からの漢字を中心に毎時間実施しているが、さらに、日頃から活字に親しむ活動を取り入れていかなければならない。

○国語A、Bとも、観点別では「書く能力」で最も全国平均との差が大きく、生徒質問紙でも「400字詰め原稿用紙2～3枚に感想文や説明文を書くのは難しい」と答えた生徒が多い。また、国語Aの短答式で無解答率が20%を越えた問題が4問あった。これは、学力不足による面も否めないが、書くことへの抵抗感を取り除くための授業づくりが必要であると考えられる。

平成27年度全国学力・学習状況調査の分析（数学）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層がやや少なく、中位層がやや多い。

平均正答率（本校 54.4 / 泉佐野市 59.4 / 大阪府 64.3 / 全国 64.4）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層及び中位層がやや少なく、下位層に少し偏っている。

平均正答率（本校 31.1 / 泉佐野市 36.5 / 大阪府 41.4 / 全国 41.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

| 数学A   | 特徴がみられた設問  |
|---|--|
| <p><b>【数と式】</b><br/>                     ○正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結びつけて理解している<br/>                     1（4）ある日の最低気温を基準にして、その前日の最低気温との差から、前日の最低気温を求める（63.2 / 75.4）<br/>                     ○数量の関係を文字式に表すことができる<br/>                     2（2）赤いテープの長さが <math>a</math> cm で、白いテープの長さの <math>\frac{3}{5}</math> 倍のとき、白いテープの長さを <math>a</math> を用いた式で表す（11.5 / 22.2）<br/>                     ○方程式を解く場面における等式の性質の使い方について理解している<br/>                     3（1）一元一次方程式 <math>7x = 5x + 4</math> を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ（67.8 / 79.4）<br/>                     ○小数を含む一元一次方程式を解くことができる<br/>                     3（2）一元一次方程式<br/> <math>1.2x - 6 = 0.5x + 1</math> を解く（49.4 / 73.8）<br/>                     ○簡単な連立二元一次方程式を解くことができる<br/>                     3（4）連立二元一次方程式 <math>\begin{cases} 4x + 2y = 5 \\ x + y = 2 \end{cases}</math> を解く（39.1 / 56.8）</p> <p><b>【図形】</b><br/>                     ○垂線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解している<br/>                     4（1）垂線の作図で利用されている図形の性質を選ぶ（47.1 / 59.1）<br/>                     ○平行移動した図形をかくことができる<br/>                     4（2）<math>\triangle ABC</math> を、矢印の方向に 4 cm 平行移動した図形をかく（37.9 / 54.5）<br/>                     ○直角三角形の斜辺を軸とする回転によって構成される空間図形の形を理解している<br/>                     5（2）直角三角形の斜辺を軸として回転させてできる立体を選ぶ（67.8 / 83.4）</p> | <p>○多角形の内角の和の性質を理解している<br/>                     6（2）四角形を五角形に変えたときの、内角の和の変化について正しい記述を選ぶ（58.6 / 69.7）<br/>                     ○ひし形の「対角線は垂直に交わる」という性質を、記号を用いた表現から読み取ることができる<br/>                     7（1）ひし形 <math>ABCD</math> において、<math>AC \perp BD</math> が表す性質を選ぶ（56.3 / 76.1）<br/>                     ○作図の根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している<br/>                     7（3）与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ（37.9 / 48.1）</p> <p><b>【関数】</b><br/>                     ○関数の意味を理解している<br/>                     9 <math>y</math> が <math>x</math> の関数でない事象を選ぶ（66.7 / 81.5）<br/>                     ○反比例のグラフが <math>x</math> 軸、<math>y</math> 軸に限りなく近づく2つのなめらかな曲線であることを理解している<br/>                     10（1）反比例のグラフを選ぶ（44.8 / 61.7）<br/>                     ○与えられた比例の式について、そのグラフ上の点の <math>x</math> 座標を基に <math>y</math> 座標を求めることができる<br/>                     10（2）比例 <math>y = 2x</math> のグラフ上の点 <math>A</math> の <math>x</math> 座標が 3 のときの <math>y</math> 座標を求める（49.4 / 64.9）<br/>                     ○与えられた比例のグラフから、<math>x</math> の変域に対応する <math>y</math> の変域を求めることができる<br/>                     10（3）比例のグラフから、<math>x</math> の変域に対応する <math>y</math> の変域を求める（37.9 / 49.3）<br/>                     ○時間と道のりの関係を表すグラフについて、グラフの傾きが速さを表すことを理解している<br/>                     12（1）時間と道のりの関係を表すグラフから、速さが最も速い区間を選ぶ（39.1 / 49.9）</p> <p><b>【資料の活用】</b><br/>                     ○多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している<br/>                     15（2）さいころを投げるときの確率について正しい記述を選ぶ（37.9 / 55.4）</p> |

| 数学B   | 特徴がみられた設問  |  |
|---|--|--|
| <p><b>【数と式】</b><br/> ○問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる<br/> 2 (1) 連続する3つの整数が19, 20, 21のとき, それらの和が中央の整数の3倍になるかどうかを確かめる式を書く (64.0/78.8)<br/> ○事柄が成り立つ理由を, 構想を立てて説明することができる<br/> 2 (2) 連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの説明を完成する (31.4/43.1)<br/> ○発展的に考え, 予想した事柄を説明することができる<br/> 2 (3) 連続する5つの整数の和について成り立つ事柄を表現する (46.5/63.8)</p> <p><b>【図形】</b><br/> ○平面図形と空間図形を関連付けて事象を考察し, その特徴を的確に捉えることができる<br/> 3 (1) ポップアップカードを90°に開いたとき, 四角形EFGHが正方形になる場合のEFの長さを求める (37.2/42.6)<br/> ○発展的に考え, 条件を変えた場合について証明することができる<br/> 4 (2) 正方形ABCDを平行四辺形ABCDに変えても, AE=CFとなることの証明を完成する (32.6/49.6)</p> | <p><b>【関数】</b><br/> ○与えられた情報から必要な情報を選択し, 的確に処理することができる<br/> 1 (1) 投映距離と投映画面の高さの関係を式で表す (15.1/29.3)</p> <p>○与えられた表や式を用いて, 問題を解決する方法を数学的に説明することができる<br/> 6 (2) 底面になる円の半径の長さが8cmのとき, 表や式から, 側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求める方法を説明する (15.1/30.8)</p> <p><b>【資料の活用】</b><br/> ○与えられた情報から必要な情報を選択し, 的確に処理することができる<br/> 5 (1) 1回目の調査で, 落とし物の合計のうち, 文房具の占める割合を求める式を答える (24.4/39.1)</p> |  |

### 3. 学習状況調査より

| 質 問 項 目                               | 本校   | 全国   | 10%○<br>5%◇ | 差    |
|---------------------------------------|------|------|-------------|------|
| 数学の勉強は好きですか                           | 52.8 | 56.0 |             | 3.2  |
| 数学の勉強は大切だと思いますか                       | 70.4 | 82.6 | ○           | 12.2 |
| 数学の授業の内容はよく分かりますか                     | 63.8 | 71.6 | ◇           | 7.8  |
| 数学ができるようになりたいと思いますか                   | 83.5 | 91.5 | ◇           | 8.0  |
| 数学の問題の解き方が分からないときは, 諦めずにいろいろな方法を考えますか | 69.3 | 69.8 |             | 0.5  |
| 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか     | 34.1 | 40.9 | ◇           | 6.8  |
| 数学の授業で学習したことは, 将来, 社会に出たときに役に立つと思いますか | 62.7 | 72.5 | ◇           | 9.8  |

|  |      |      |   |     |
|--|------|------|---|-----|
| 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか                          | 59.4 | 67.5 | ◇ | 8.1 |
| 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか                       | 64.9 | 70.1 | ◇ | 5.2 |
| 数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか                         | 74.8 | 80.6 | ◇ | 5.8 |
| 今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか | 49.5 | 51.3 |   | 1.8 |

○すべての項目で全国平均を下回り、ほとんどの項目で5ポイント以上の差となっている。

○「数学の勉強は大切だと思っていますか、社会に役立つと思いますか」等の質問に対する回答が平均を大きく下回っていることから、数学の必要性、実生活との結びつきを実感していないことがうかがえる。

○自分で考えることや、自分の考えをまとめること（文章化すること）が苦手であり、記述式の問題であれば無解答率も大幅にあがる傾向がある。

○文章化することだけでなく文章を読みとる力も弱いため、問題文の長い設問や選択肢の文の長い問いの無解答率も高くなる。

○疑問に思ったことを解決したいという意欲が低い。

○最後まであきらめずにとりくもうとする姿勢はうかがえるが、必要性を感じていない分学力として定着していないと思われる。

## 平成27年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

### 1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層がやや少なく、中位層がやや多い。

平均正答率（本校 42.5／泉佐野市 48.2／大阪府 50.8／全国 53.0）

### 2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

| 理科   | 特徴がみられた設問  |
|--|--|
| <p><b>【科学的な知識理解】</b><br/>○科学的知識の定着に課題がある。<br/>2(1) 天気の記事から風力を読みとることができる。(67.0/77.9)<br/>5(1) オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる(44.3/59.6)<br/>8(1) 背骨のある動物を、セキツイ動物と表すことができる(48.9/63.9)</p> <p><b>【観察・実験の技能】</b><br/>○数量の扱いに課題がある。<br/>1(1) 特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求めることができる(23.9/45.0)</p> <p><b>【科学的な思考・表現】</b><br/>○複数の資料・知識を活用して考える力に課題がある。<br/>1(2) 実験の結果を分析して解釈し、炭酸水素ナトリウムを溶かした方の試験管を指摘することができる(21.6/32.6)<br/>1(3) 二酸化炭素の体積を量る場面において、水上置換法では正確に量れない理由を説明することができる(33.0/53.0)<br/>1(5) 炭酸水素ナトリウムが二酸化炭素の発生に関係することを特定する対照実験を計画することができる(39.8/51.7)</p> | <p>1(6) 他者の考えを検討して改善し、混合物を加熱したときの化学変化を説明することができる(47.7/57.7)<br/>2(3) 他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明することができる(2.3/14.5)<br/>3(2) 上空と地上の気温差による降水量の違いを調べる装置として適切なものを選ぶ(44.3/39.0)<br/>4(1) 凸レンズによってできる像を調べる実験の結果を分析して解釈し、規則性を指摘することができる(28.4/43.7)<br/>7(2) 実験の結果を分析して解釈し、キウイフルーツはゼラチンを分解することを指摘することができる(59.1/76.4)<br/>8(2) 平均値を求める場面において、平均値を求める理由を説明することができる(36.4/55.7)<br/>○実験結果から新しい課題見出す力に課題がある。<br/>7(3) 見いだした問題を基に、適切な課題を設定することができる(40.9/57.3)<br/>8(3) 他者の考察を検討して改善し、課題に対して適切な(課題に正対した)考察を記述することができる(33.0/47.4)</p> |

### 3. 学習状況調査より

| 質 問 項 目   | 本校   | 全国   | 10%○<br>5%◇ | 差    |
|---|------|------|-------------|------|
| 理科の勉強は好きですか   | 57.2 | 61.9 |             | 4.7  |
| 理科の勉強は大切だと思いますか                                     | 61.6 | 69.3 | ◇           | 7.7  |
| 理科の授業の内容はよく分かりますか                                   | 64.9 | 66.8 |             | 1.9  |
| 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか                          | 60.5 | 75.5 | ○           | 15.0 |
| 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか                   | 38.5 | 46.9 | ◇           | 8.4  |
| 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか                 | 53.9 | 54.3 |             | 0.4  |
| 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか                        | 18.7 | 22.9 |             | 4.2  |
| 理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか              | 26.4 | 38.4 | ○           | 12.0 |
| 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか                       | 34.1 | 83.9 | ○           | 49.8 |
| 観察や実験を行うことは好きですか                                    | 68.2 | 80.1 | ○           | 11.9 |
| 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか                    | 42.9 | 55.0 | ○           | 12.1 |
| 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか                         | 45.1 | 67.2 | ○           | 22.1 |
| 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか          | 34.1 | 55.0 | ○           | 20.9 |
| 今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか | 84.6 | 92.0 | ◇           | 7.4  |

○気象分野の正答率が高く「3(2) 上空と地上の気温差による降水量の違いを調べる装置として適切なものを選ぶ」では、全国平均を上回った。

○知識の活用問題 3(2)では、正答率が上がっているが、その他の活用問題では全国平均を下回っている。1つの変化すること（従属変数）に対する原因として考えられる要因（独立変数）を捉えることができる一方で、複数の資料を活用して、実験を計画することや、原因を考察する力に課題があると考えられる。

○無回答率が高い。特に記述式の問題では、無回答率が高くなる傾向がある。

○複数の資料を活用して考察・実験を計画する力に課題があり、無回答率が高くなる傾向がある。

○理科室を利用した実験・観察授業を行っていないことが、学習状況調査「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか。」という質問に対して大きく下回っている結果につながっていると考えられる。



○本校では、無回答率を減らすために、授業のふりかえりを行う中で、本時の課題として、記述で説明する問題を出し、文章を書いたり、考えたりする機会を増やすようにしている。

### 平成27年度全国学力・学習状況調査の分析（生徒質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きい特徴のある項目

| 設問内容種別    | 本校の状況  | 本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >   |
|-----------|--|--|
| 【家庭生活の様子】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食を毎日食べていると回答した生徒は全国を大きく下回っている。</li> <li>・毎日同じ時刻に起きたり寝たりしている生徒は全国を下回っている。</li> <li>・家の人が授業参観や学校行事に来ると答えた生徒は全国を大きく下回っているが、家で学校の出来事を話す生徒は全国と同じくらいである。</li> <li>・地域や社会で起こっている出来事に関心がある生徒は全国を大きく下回っているが、地域の行事に参加している生徒は全国を少し下回る程度である。</li> <li>・テレビやインターネットでニュースを見る生徒は全国を大きく下回っているが、新聞を読む生徒は全国をそれほど大きくは下回っていない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○朝食を毎日食べている。<br/><u>&lt;82.4/93.5&gt;</u></li> <li>○毎日、同じくらいの時刻に起きている。<br/>&lt;83.6/92.1&gt;</li> <li>○家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来る。<br/>&lt;78.1/83.4&gt;</li> <li>○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。<br/><u>&lt;44.0/55.9&gt;</u></li> <li>○テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）<br/>&lt;75.9/83.9&gt;</li> </ul> |
| 【家庭学習の様子】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家で、学校の宿題、予習、復習をしていると答えた生徒は全国よりも大きく下回っている。</li> <li>・昨年度より家で学校の宿題をしていると回答した生徒は増加しているが、時学校の授業の予習や復習</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○家で、学校の宿題をしている。<br/>&lt;83.5/89.3&gt;</li> <li>○家で、学校の授業の予習をしている。<br/><u>&lt;23.1/35.3&gt;</u></li> <li>○家で、学校の授業の復習をしている。<br/><u>&lt;38.5/52.0&gt;</u></li> </ul>  |



- ③活用力の向上をめざし、より発展的な内容を授業中に行う「ステップアップ・ターム」の実施
- ④数学・英語での習熟度別指導や学級を2分割しての少人数指導の実施
- ⑤1年生への数学・英語の週1回の7時間授業(放課後学習)の実施
- ⑥3年生への定期テスト1週間前の7時間授業の実施
- ⑦3年生希望者への放課後や長期休業中の補充学習会の実施
- ⑧定期テスト前の放課後を利用した教科別質問日の実施
- ⑨教師の授業力向上のため、全クラスでの研究授業と、外部から講師を招いて学力向上のための研修
- ⑩教科ごとの学習方法や家庭学習のしかたについての情報提供のため、全家庭に「家庭学習の手引き」を配布
- ⑪授業規律の確立に向けたとりくみの実施

◎これからのとりくみ

- ・ 毎日の宿題、朝の学習、放課後学習の継続
  - ・ 読書活動の推進
  - ・ 支援教育の観点を活かした授業づくりの推進
  - ・ 授業における言語活動の充実
  - ・ 指導と評価の一体化をめざした授業づくりの充実
  - ・ 学習規律の再点検
  - ・ 教職員研修の充実
  - ・ 地域との交流の充実
  - ・ 他校種との連携の充実
- 全ての教科で、子どもたちの考える力、判断する力、表現する力をはぐくむことをめざした言語活動の充実を、より一層すすめます。
  - 書く力を意識した授業づくりや課題の作成を行います。
  - 子どもの学力実態に即し、すべての子どもにわかりやすい授業を実現するため、支援教育の観点を生かした授業づくりと、習熟度別少人数指導の工夫と充実を図ります。
  - 支援教育委員会と連携し、個々の子どもの学習状況や課題を把握し、個別支援や通級指導教室の活用などきめ細かいとりくみをすすめます。
  - 目標に準拠した評価の移行を円滑に行うため、授業と評価の一体化を図り、授業改善に努めます。
  - 基礎学力の充実のために反復教材の工夫と家庭学習への活用をすすめます。
  - 家庭学習の充実を図るため、「てびき」の配布を継続するとともに、「てびき」の内容の充実を図ります。
  - 大人の協力で子どもたちを見守りサポートするために、家庭・学校・地域の連携を一層すすめます。